

活動報告

～サ高住（サービス付き高齢者向け住宅）に暮らしてみたら～第2弾

*おひとり様暮らしを続けるには・・・

Aさんは90歳、とても上品で、かわいらしい人だ。同じ階に入居されたので、食堂に行くときエレベーターで一緒になる。「私、何階かしら?」「お姉さんたちも長期滞在?」慣れるまでということで、ここを紹介したという友人夫妻が、朝夕の食堂に付き添って往復していたが、一人になるとどうも混乱しているようだ。高齢になって環境が変わると認知症になったり進行したりすることが少なくないと聞いているが、ここは初めから認知症の人は入居できないので、ここにきて一時的な混乱かなと思いつつ、皆でできるサポートをしていた。

しばらくして、デイサービスに通うようになったが、だんだん食堂にも来なくなりデイの送迎の際に会うとかなり痩せて、調子がよくなさそう。更に朝晩、違うホームヘルパーが来るようになった。とても大きな声で話す元気なヘルパーさん。決まった時間内にご飯を終わらせないといけないのだからがせかされている感じがする。おっ

とりしたAさんとの相性は?と、気になっていたが日ならず退居されてしまった。隣の施設に入ったという。結局、外からのサービスを使いながらも自立して暮らせる、という入居条件に当てはまらなくなったということだろう。この間半年もなかった。

前回、私は、サ高住に介護サービス事業所がついていると、「囲い込みにつながるので、ない方がいい」と、ここを選んだ理由の一つに挙げた。しかし、Aさんのケースでは、ここに事業所があれば、デイに通うのに便利だし、ヘルパー事業所があれば、彼女の性格や様子を間近に見て、相性の良いヘルパーを、日替わりで変わることもなく派遣してもらえたのではないかと、そうすれば折角入ったところから短期間でまた動くこともなかったのではないかと、思うようになった。

社会的サービスを受けながらも自立して暮らし続けるにはどこが・・・と考えた最近の話。

ひと・まち社理事 木下伸子

第21回総会を開催します

2021年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大で人との接触を極力減らす生活を強いられることになりましたが、様々な活動が自粛される中、オリンピックが開催され、さらに現在は冬期オリンピックが開催されています。

コロナ禍でも事業活動を継続しなければならない福祉施設では、オンラインではなく対面で会いたいという家族の希望に応え、直接顔を合わせて会話ができるよう感染症対策を徹底しながら工夫して実施しています。また、ボランティアの受入れ自粛が続く事業所では職員が知恵をしばって利用者が楽しめる機会を作ったり、地域との関係性を途切れさせないための働きかけをするなど、なんとかwithコロナの活動を模索しています。

ひと・まち社では当初の不安とは反対に、過去最多の評価の依頼がありました。コロナ対策として事業所訪問の時

間をなるべく短時間でできるよう工夫し、感染症対応マニュアルを作成して感染防止に努めながら、それぞれの事業所がコロナと共存しながら事業活動を継続する活動を丁寧に取り、評価に反映させてきました。今年はさらにひと・まち社の活動の根幹である調査活動についても再開できるよう準備を進めたいと考えています。

また、昨年は5年ごとの認定NPOの更新を行う年度でしたが、無事に認定更新が認められました。大勢の皆様からの寄付のご協力をいただき、毎年認定NPOとしての要件を満たすことができたおかげと、改めて感謝申し上げます。

来る3月22日、第21回総会を開催します。今年もZoom会議を併用しての開催を予定しています。皆様のご参加をお願い致します。

認定NPO 市民シンクタンクひと・まち社第21回総会

日時：2022年3月22日(火)14時～15時

会場：ASKビル4階会議室

(Zoomでの参加をご希望の方は早めに連絡をお願いします)

自治体政策研究会「介護保険制度の20年を振り返る」

介護保険制度がはじまって20年。ひと・まち社では介護保険制度のスタート前年からの5年間の「介護保険制度検証のための基礎調査」を実施するなど、介護保険に関する調査を継続的に実施してきました。3月5日(土)の自治体政策研究会では、介護保険の20年を振り返って、池田理事が介護保険の報告をすることになりました。次号では学習会の報告を予定しています。お問い合わせはひと・まち社まで。

編集後記：コロナ禍も2年を超えた。季節は忘れず巡ってきて、今年も梅の枝につぼみが膨らみ始めた。古来、季節を先取りすることで風雅を歌い、愛でてきた。やがては日照時間を調整して正月に鶯を鳴かせるなど、人は自然を超えようとしてきた。しかし、コロナ禍を通して自然の力の大きさを改めて感じるとともに、自然と調和して生きることの大切さを感じる。(M)